










様式第8号（第6条関係）

決 裁	議長	局長	次長	係長	係員
				 	  

派遣承認要求書

令和2年10月12日

栗原市議会議長 殿

会派名 政策フォーラム  
 代表者 石川 正運 

下記のとおり議員を派遣したいので、承認されるよう要求します。

記

日時	令和2年11月 9日（月） 午前8時15分から 平成2年11月10日（火） 午後6時00分まで
派遣先	J Aあきた白神（秋田県能代市）、青森県庁（青森県青森市）
派遣目的	・ J Aあきた白神園芸メガ団地において、東北発高品質ブランドを生み出した秋田「白神ねぎ」の取り組みについての机上調査、現地調査 ・ 青森県が新たに策定した「青森県エネルギー産業振興戦略」において、豊富なエネルギーポテンシャルを地域の産業振興につなげる様々な施策の取り組みについての机上調査
経費	100,647円
派遣議員氏名	石川 正運、三塚 東、佐々木 嘉郎
議長依頼文の可否	<input checked="" type="radio"/> 要 ・ <input type="radio"/> 否
備考	

※ その他資料があれば添付願います。

## 栗原市議会視察行程表

【会派名：政策フォーラム】

日程：令和2年11月9日(月)～11月10日(火)

月日	行 程	発	着	摘 要
11/9 (月)	くりこま高原駅 ～ 盛岡駅	8:27	9:18	J R新幹線やまびこ51号
	盛岡駅 ～ 秋田駅	9:46	11:25	J R新幹線こまち5号
	秋田駅 ～ 道の駅ふたつ	11:25	13:00	レンタカー移動
	昼食等			【市内】
	道の駅ふたつ ～ J A秋田白神 能代営農センター	13:30	14:00	レンタカー移動
	【行政視察(机上調査)】 「園芸メガ団地について」	14:00	15:00	J Aあきた白神営農企画課 (秋田県能代市) TEL : 0185-55-0777
	J A秋田白神 能代営農センター ～ 園芸メガ団地	15:15	15:30	レンタカー移動
	【行政視察(現地視察)】 「園芸メガ団地について」	15:30	16:00	
	園芸メガ団地 ～ 宿泊先	16:00	16:30	レンタカー移動
ホテル(泊)			【宿泊先】 ホテルルートイン能代 TEL : 0185-89-1003	
11/10 (火)	ホテル ～ 青森市内	8:30		レンタカー移動
	昼食等			【市内】
	青森市内 ～ 青森県庁		13:15	レンタカー移動
	【行政視察(机上調査)】 「青森県エネルギー産業振興戦略及 び再生可能エネルギーについて」	13:30	14:30	青森県エネルギー開発振興課 (青森県青森市) TEL : 017-734-9378
	青森県庁 ～ 新青森駅	15:00	15:15	レンタカー移動
	新青森駅 ～ 盛岡駅	15:52	16:44	J R新幹線はやぶさ34号
	盛岡駅 ～ くりこま高原駅	17:07	17:56	J R新幹線はやぶさ112号

## 視察研修結果報告書

令和2年11月25日

栗原市議会議長 佐藤 久義 殿

政策フォーラム  
代表 石川 正運



視察・研修した結果について、下記のとおり報告します。

### 記

- 1 期 間 令和2年11月9日(月)～令和2年11月10日(火)
- 2 視察研修先 ①JAあきた白神(秋田県能代市)  
②青森県庁(青森県青森市)
- 3 目 的 ①JAあきた白神「白神ねぎ」  
ねぎで販売額14億円の産地について  
②青森県のエネルギー産業戦略について
- 4 調査研究内容 別紙のとおり
- 5 参加議員 石川正運議員、佐々木嘉郎議員、三塚 東議員



## 「ネギで販売額 14 億円の産地を視察調査」

日本の米の生産は、人口の減少と高齢化のもと、毎年 10 万トンの減産が必要だという。米以外に作るものがない、だから安くても米を作る。農家からはこんな声が聞こえる。しかし、かつて 1 俵 60kg で 8,700 円という米価を経験しているが、果たしてこれで採算が合うはずがない。ホールクroppや大豆、麦などの転作の他に有望な作物はないか、模索していた。

そんな折、ネギだけで販売額が 14 億円を突破した地域があるという情報を得た。秋田県能代市の J A あきた白神が取り組んだものだ。この J A あきた白神は、すでに山うど、みょうが、アスパラガス、キャベツ、そしてネギを地区内に広め指導していた。

令和元年の販売額は、山うど 7,800 万円、みょうが 1 億 1,400 万円、アスパラガス 3,000 万円、キャベツ 8,000 万円だ。市場から評価を得るには、高品質なネギを年間を通して安定的に流通させなければならないという。その下支えする基盤として J A あきた白神では、しっかりした指導体制のもと、生産者と J A そして能代市が一体となって、一大プロジェクトに取り組んだ。秋田県からも全面的に支援を受け、広大な面積で機械化を進め、生産性の劇的な向上を図る「園芸メガ団地育成事業」を立ち上げた。

従来のネギづくりは、零細農家の個々の努力が主体で、生産者 1 人では 2ha が限界とされてきた。そこで国県の支援を受け、より大規模化、作業の大型機械化を進めた。天候やそれに伴う病気の発生もあったが、土壌改良や調査研究を重ね、ついに令和元年のネギの売り上げは、14 億円以上となった。

法人として 4 団体、個々の家族農業も端境期にはお互いにネギが品薄にならないように補完し合っている。

現在、能代市役所には「ネギ課」が設置されていて、行政も生産現場に密着した指導業務に当たっているというからすごいことだと思う。将来的にはネギだけで 20 億円を達成したいし、キャベツなどでも大団地化をはかり、農家所得をあげていきたいと話した。

最後に「人を育てていくことが何より重要だと思う。現実に新規就農者は少なく、若手の担い手が足りない。土壌の良くない所や条件不利地は耕作放棄地として残っている。これらの課題を少しずつ改善して、農家所得向上につなげていきたい」と熱く話した。

農業主体の栗原市においても、大いに参考になる視察であった。

## 「青森県の再生可能エネルギー施策の取組状況」

青森県は、平成 18 年に全国に先駆けて「青森県エネルギー産業振興戦略」を策定し、様々な施策を推進してきたが、東日本大震災以降のエネルギーを取り巻く環境変化や、国のエネルギー産業の現状と課題を踏まえ、平成 28 年 3 月、新たな戦略を策定した。

新たな戦略では、東京大学が提唱する将来ビジョン「トリプル 50」（エネルギー自給率 50%、エネルギー利用率 50%、化石燃料依存率 50%）の考え方に沿って、青森県の 2030 年までの目指すべきエネルギー構造を「消費ベース」に換算した「化石燃料 43%」、「電力 31%」、「熱利用・再生エネルギーなど 26%」と定めるとともに、新たな視点から①太陽発電②風力発電③地熱発電や地中熱の利用④木質バイオマス発電によるエネルギー産業の振興方向と重点的に取り組むべき戦略プロジェクトを提示し、今後導入が見込まれる再生可能エネルギー発電設備への投資や各戦略プロジェクトの実施に伴う事業効果を事業費全体で約 8,000 億円、雇用の創出効果を約 1 万人と試算し、国のエネルギー政策に貢献するとともに、資源とエネルギーが効率的に循環する持続型、低炭素型の地域社会を目指すとしている。

菅義偉首相は初の所信表明演説で「2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」と述べ、「脱炭素社会」の方向を明確にした。

政府は、地球温暖化対策を新たな成長戦略と位置付け、産業構造を変え、経済と環境の好循環を生み出す考えである。

栗原市の環境基本計画では、再生可能エネルギーの推進を唱えている。「持続可能な低炭素社会」と「エネルギーを有効に活用した産業振興」の推進や普及拡大を目標に掲げ、「人材」「資金」など地域産業や雇用創出の原動力となる地域社会を目指すべきではないだろうか。